

# 黄泉の国への訪問話 新旭町出土 蛤入りの土器

日本最古の歴史書とされる『古事記』には、「黄泉の国」を舞台にした伊弉那岐命と伊弉那美命の男女の神の物語が書かれています。神話の内容は次のとおりです。「イザナキとイザナミ」は、国造りを進めていましたが、火の神を



蛤入り高杯

生み落とす時、イザナミは火傷を負い亡くなります。イザナキは大きく悲しみ、失望の念からイザナミを追って黄泉の国に向かい、「現世に戻る」と懇願しますが、イザナミは「ヨモツヘグイ」を済ませたので戻ることができないという下りがあります。

「ヨモツヘグイ」とは、「黄泉戸喫」と書き、黄泉の国で煮炊きしたものを食べることをいいます。そのことは黄泉の国の住民となったことを示し、現世にはもう戻ることができないことを表わしています。この神話の内容は、今から1500年前頃の古墳時代の横穴式石室での様子を描写したものといわれ

ています。

高島市新旭町安養寺地先に所在した二子塚古墳は、昭和30年代の開墾により消滅しましたが、この開墾の際に、数個の蛤が入った高杯や鉄製の三葉環頭大刀が採集されています。朝鮮半島で造られた大刀や海辺で捕れた蛤を副葬することから、二子塚古墳に埋葬された被葬者の交流が日本海におよぶことを物語っており、この地域を治めていた有力者の古墳と推定さ



三葉環頭大刀

れます。

二子塚古墳から出土した蛤入りの高杯は、被葬者に「ヨモツヘグイ」として供えられたものと考えられ、古事記に描かれた神話の様子を今に伝える大変貴重な資料です。

蛤入り高杯と三葉環頭大刀は、現在、安土城考古博物館で開催中の『湖を見つめた王 継体大王と琵琶湖』（6月17日まで）に出品展示中です。

文化財課

☎(32) 4467

## 編集者のつづき

表紙は、高島市国際協会主催の「世界に発信 虹いろ柿渋手描き染めワークショップ」のようす。講師は、世界で活躍されている染色家 山本玄匠さん。国際舞台での体験談を交えたお話のあと、柿渋染めの体験が行われ、参加者は思い思いのデザインでオリジナルTシャツづくりに挑戦されました。それぞれ個性のある模様は、見ていただけでも興味深く楽しめました。完成品は後日受取とのこと。さて、どんな仕上がりに？ (広報担当S)

広報たかしま

平成24年

6

月号 No.149

発行 高島市

編集 政策部企画広報課

〒901-1001 滋賀県高島市新旭町北畑5の1番地

☎0740 (25) 8000(代)  
http://www.city.takashima.shiga.jp  
✉t-info@city.takashima.shiga.jp